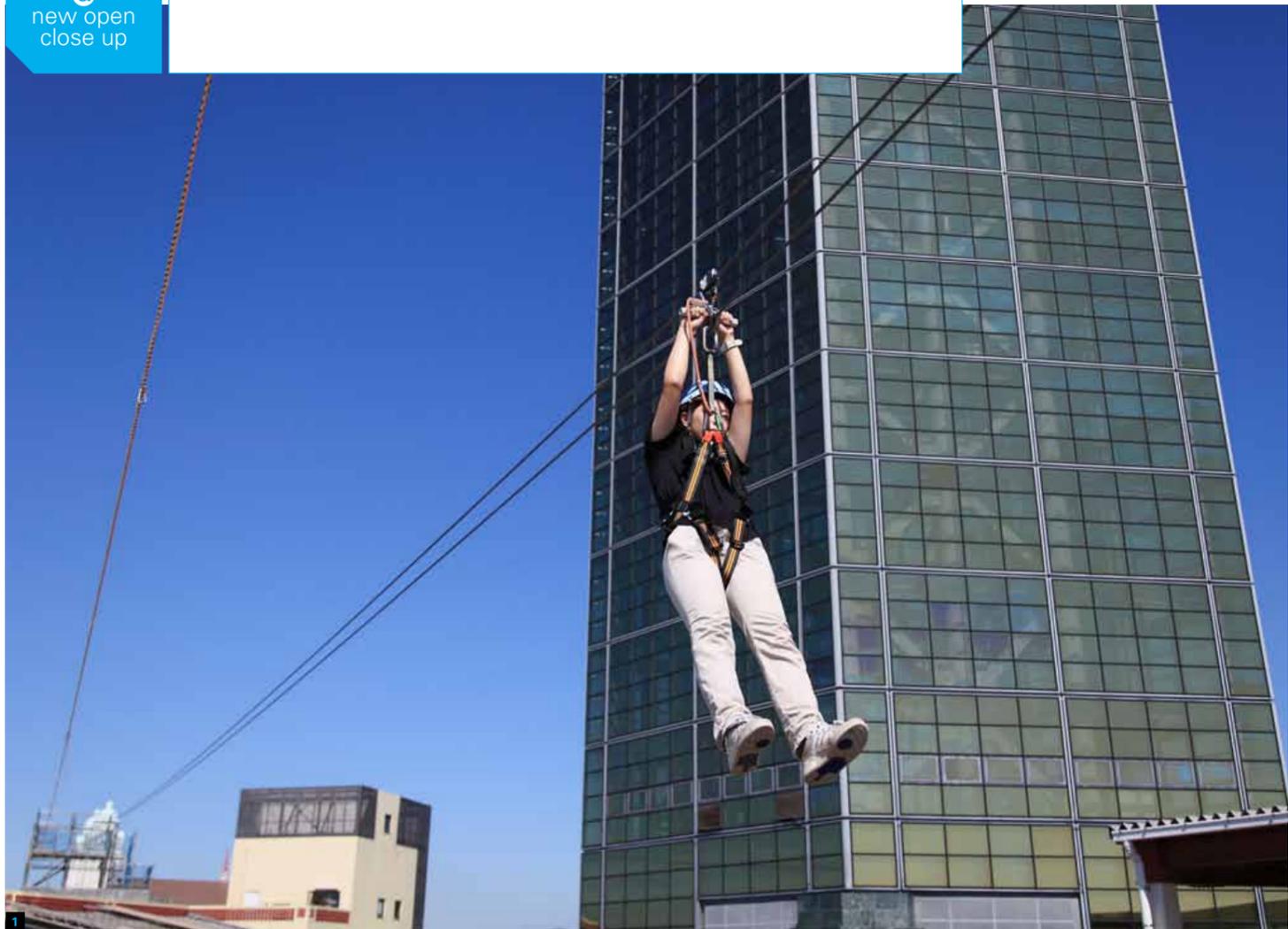


## プレイパークゴールドタワー



1.2.全地上20mを滑走するスリルを求めて、ジップラインに挑戦する人は多い。滑走時間は約20秒だが、利用者の満足度は高い  
 3.4.右手に瀬戸内海を望みながら、4階屋上に組まれたスタート台から100m先のゴールを目指して一気に滑走する  
 5.4階屋上のスタート台(写真左)から3階屋上のゴール(写真右)に向け滑走するが、20mとはいえかなりの高所である



6.7.8.ジップライン利用にあたってはスタッフがハーネスの装着を行ない、安全対策に万全を期している  
 9.10.ゴールドタワー展望塔をはじめ多種多様なレジャーアイテムが充実しているため、県外客も多い

地上20mの空中飛行が楽しめる「ジップライン」  
スリル・爽快感が人気集め、新規集客に成功

今年の夏休みは全国的な猛暑に見舞われ、レジャー施設によっては集客の明暗を分けたが、瀬戸大橋を間近に望む絶好のロケーションで営業する複合レジャー施設、プレイパークゴールドタワーでは「ジップライン」を導入し、子どもから大人まで幅広い層から人気を集めた。同施設は、高さ158mのゴールドタワー展望塔やプレイパーク、キッズランド、プラネタリウム、ゲームコーナーのほかボウリング場や飲食施設など多彩なレジャー施設を有し、ファミリーからカップルまで幅広い客層から支持を受けている。特に屋内型のレジャーアイテムが充実していることから、雨天時には地元香川県をはじめ隣接する愛媛県、徳島県からの利用者で賑わいを見せる。

ジップラインは、ワイヤー上を滑車で滑走するという

シンプルなアトラクションだが、その最大の魅力はスリルと爽快感にある。同施設の場合、4階屋上と3階屋上に設けられた足場をワイヤーで結び、地上20mという高所のなか全長約100mの距離を一気に滑走するというスリルは、他ではなかなか体感できないものだ。

利用料金は1回500円と、ジップラインを導入している他施設に比べて安く設定している。これは入園料(525円)や他のアトラクション料金が15分105円というタイム制料金とのバランスを考慮した結果だという。

ジップラインの利用状況を見ると、夏休み期間中の土曜・日曜日は1日約60人、平日は約30人。ジップラインの営業時間が12時～18時(夏休み終了後は17時まで)の6時間であったので、1時間あたり10人程度の利用があった計算だ。利用者属性は、子ども6割、大

人4割で、男女比率はほぼ半々。当初は子どもがもっと多くなると予想していたが、ジップラインは体重30kg～90kg、身長110cm以上が使用条件となるため、小学校低学年以下の子どもは利用できないことが影響したと同施設では分析している。利用パターンで特に目立ったのが、子どもがジップラインで歓声を上げながら滑走しているシーンを、親たちがゴール側で待ち受けて写真を撮影するというもの。夏休みの貴重な思い出として、ジップラインはファミリー客に好評であったという。

同施設店長の松原浩司氏は、ジップラインの導入効果について次のように語る。「当施設は小さな子ども連れファミリーが多いため、小学校高学年以上の子どもが楽しめるアトラクションが手薄でしたが、ジップラインの導入でそれをカバーすることができました。宣伝広告を展開するうえでも、集客の目玉となる新アイテムがあるのとないのとでは大きな違いです。ジップラインを体験されたお客様の満足度は非常に高いので、導入してよかったと思います」

ジップラインの導入経緯については、同施設では夏

休みの集客対策として新アトラクションの導入をGW明けに計画した。新規事業としてジップラインの全国展開を推進する日建リース工業(株)の提案を受け、ジップライン導入の検討を行なった。一時は迷途も候補に上がったものの、最終的にジップラインに決定した。松原店長は「当施設にはゴールドタワーがありますので、同じ高さをセールスポイントとしてPRでき、お客様へのアピール度、インパクトを考えてジップラインに決めました」と語る。

導入にあたっては、レンタルシステムを活用している点も注目される(レンタル期間は7月9日～11月6日)。新アトラクションは、常設ではなく期間限定での設置を考えていた同施設にとっては、レンタルは初期投資が抑えられるうえ、定期メンテナンスのサービスが付帯しているので、施設側の負担が少ないなどメリットは多い。アメリカでは絶大な人気を誇るジップラインだが、日本では今後、普及が期待されている。日建リース工業ではジップラインなどのラインナップを充実させ、レジャー施設のさまざまな要望に応えていくとしている。